地域と共生するFFG

コミュニティカフェプロジェクト

株式会社 福原材木店（ふくはらざいもくてん）

常務取締役　福原 功夫（ふくはら いさお）氏

取引店：福岡銀行 八幡支店

北九州市八幡地区。1901年に官営八幡製鐵所の創業と共に全国から働き手が集まり、「鉄の町」として発展をしてきました。働き手と家族が移り住み、多くの家が建ち、この街の材木屋には「家を建てるため」、「大工を探すため」、「材料を選ぶため」、地域の人々が情報を共有する場として足を運んでいました。

この八幡の地で創業131年を迎える株式会社福原材木店では、昔ながらの材木店の役割を果たすため、2022年11月22日に地域のコミュニティをつなぐことを目的としたコミュニティカフェ「ヤハタココ」をオープンしました。

バリスタの経験を持ち、店内でコーヒー豆の焙煎も行う福原常務取締役に地域コミュニティの活性化を目指す本事業への想いを伺いました。

特別なコーヒーで地域コミュニティの活性化を目指す
コミュニティカフェ「ヤハタココ」をオープン

昔ながらのビジネスマッチングを現代に蘇らせるコミュニティ事業

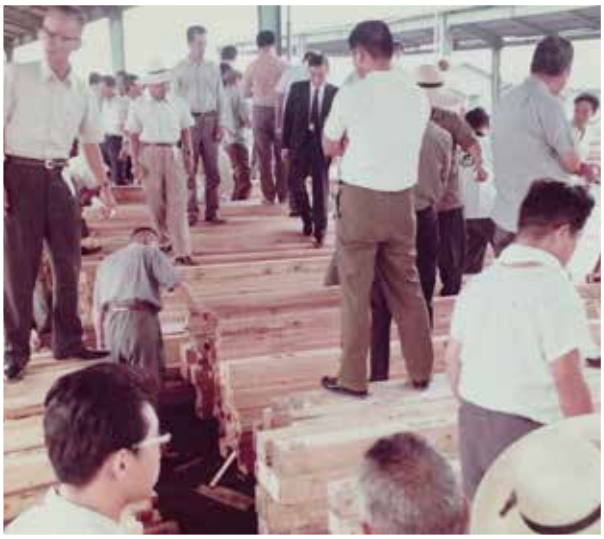
今回のコミュニティ事業の計画は2017年から構想を進め、2019年に建築業界を盛り上げようと地域の人が気軽に意見を出し合える場を提供するイベントを開催したことをきっかけに本格的な事業がはじまりました。

まず、地域の人とのコミュニケーションを図るため、トレーラーでコーヒーを振舞いながら意見交換の場を提供しようと考えました。メーカーにも協力してもらい、2019年の夏と秋の2回、地域と街をつなぐ「おうちカフェ」をコンセプトに当社の駐車場でコーヒーを振舞うイベントを行ったのです。

このイベントでは参加者からアンケートをとり、地域の人の様々な意見を伺いました。その中に、「このあたりにはコーヒー屋がないからお店を開いてほしい」という声がありましたが、それは地域の人が気軽に集まれる場所がないという課題でもありました。そこで、地域を繁栄させるために地域の人が集まれる材木屋らしい箱を作ろうと考えたのです。

材木屋らしい箱の提供を考えた背景には、幼いころに見てきた当社の加工場がヒントになっています。そこは誰でも立ち寄れる加工場で、大工が鉋（かんな）がけやドラム缶に火を焚いて木を叩き、棟上げの材料作りをしていました。そこに家を建てたい地域の人が柱を探しにやってくるのですが、そこで大工と巡り合い、要望を話していく過程で家を建てる約束を取り決めマッチングし、商売が生まれていたのです。私はこの光景を鮮明に覚えていて、加工場という人が自由に出入りできる空間でBtoBやBtoCの商売が自然に成り立っていた時代でした。

昔の福原材木店の外観


昔の木材市場での競りの様子

しかし、現在はデジタル化が進み人と人がリアルで会う機会が減少しています。コロナ禍という影響もあり、昔ながらの人が集まれる空間がないと思ったときに、材木屋がその空間を作る役割を担うべきだという使命感から今回のコミュニティ事業を立ち上げたのです。

コロナ禍が事業計画を見直すタイミングになり魅力的な物件と出会う

2017年にコミュニティ事業の構想を進めすぐにでも事業を始めようとしていたのですが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で事業計画が思うように進行できなくなってしまいました。当初の計画では、本事業の中心であるコミュニティカフェは新築物件での経営を想定していましたが、コロナ禍で事業計画を再検討している期間に、本社から斜め前にある旧保険会社のオフィスビルが売りに出たのです。それを知った私はすぐに購入の決断をしたのですが、コロナ禍でカフェを経営するということはリスクが大きいという懸念がありました。そんな時に、知人から事業再構築補助金のことを聞いたのです。

この事業再構築補助金は、福岡銀行に相談したところ丁度専門部署を立ち上げたというタイミングとのことだったので、スムーズに申請の協力をしてもらいました。

内覧会の様子（右から福原常務、福岡銀行占野監査役（八幡支店 元支店長）、福田支店長）

街を歩く人が気軽に集まる空間として人をつなぐコミュニティカフェをオープン

2022年11月22日、いい夫婦の日に「八幡のまちのココに集う」というコンセプトから、屋号を「ヤハタココ（YAHATA COCO）」としたコミュニティカフェをオープンしました。自家焙煎のこだわりの特別なコーヒーを提供し、「人と地域とをつなぐコミュニティカフェ」を目指しています。

ヤハタココは、地域の方々に喜んでいただけるようなモノ・コト・ヒトとのつながりが生まれるきっかけになるべく、3つの運営事業を取り入れています。

一つ目が、オリジナルブレンドを自家焙煎する焙煎室と、憩いの場となるようカフェを習慣にするコーヒースタンド。このコーヒーを飲みに人が集まり、そこで人と人とのつながりができるきっかけになるため、焙煎からこだわった特別なコーヒーを提供します。

さらにこのコーヒースタンドでは、雑貨や食材など、アジアをはじめとした国内外の商品

を多数陳列し販売する、日々新しいことを追求していく焙煎&カフェ提供ブースとして活用していきます。

二つ目が、起業家が多い北九州市で新たな挑戦をする人を後押しするシェアキッチン・シェアブースです。このシェアスペースでは開業を目指す方がテストマーケティングを実施できる空間を提供します。

シェアキッチンには、作り手と買い手がフランクに会話ができるように肘を置ける高さのカウンターを設置しています。ここで生まれた会話をきっかけにビジネスにつなげてもらうのが目的ですが、そこで特別なコーヒーを片手に持ち、落ち着いた空間での会話を楽しんでもらいたいと思っています。

焙煎室でコーヒー豆の焙煎をする福原常務

店内を見渡すことができるシェアキッチン

コーヒースタンドとシェアスペース

焙煎されたコーヒー豆

開業を目的にテストマーケティングを実施する方には、建設面での支援、金融機関や保険の紹介、共同イベントの開催などで開業に向けたサポートをしたいと考えています。

これからはシェアスペースを利用してもらう方の募集を拡大し、地域を超えた多くのコミュニティの創出を目指します。

三つ目が、店舗2階に設置したコミュニティスペースです。ここでは習い事教室やセミナー、作家の作品展示や町内会議、イベントなど多種多様な利用方法を準備しており、子供・学生・

店舗2階のコミュニティスペース

子育て世代・年配の方・留学生など、幅広く地域の方が交流できる場として作りました。

店内と外をつなぐ空間「ホワイエ」を活用した「縁側」の魅力

コミュニティカフェとして店舗を改装していく中で一番こだわったのは「縁側」です。

縁側の魅力というのは中と外の空間を遮る壁がないことです。昔ながらの平屋の家では縁側に座っていると隣の家の人が話しかけてきて会話が生まれていました。家の中と外をつなぐ空間である壁がない縁側が地域をつなぐコミュニティとなっているのです。

縁側の役割を果たす大きな窓は店内と外をつなぐ空間となっていて、黄色の窓から差し込む光は黄昏感を生み出す

ヤハタココでは、店内と外をつなぐ役割として大きな窓を設置しており、ここが縁側としての機能を果たします。この中と外をつなぐ空間のことを建築用語で「ホワイエ」といい、私が一番こだわっている点であり、この考え方は当社の建築部門「エスプレッソホーム」の建築・リフォーム事業に色濃く反映されています。

このホワイエという空間があることで店内の様子が分かり、入りやすさが格段に上がるのです。

地域の人がココに集まるコミュニティカフェを目指して

ヤハタココに訪れる人が地域のコミュニティを広げ、商売につなげる場になればと思っています。ココに来れば新しい出会いがあり、それが訪れる人の生活の中でルーティンになるような空間の提供を目指しています。

「ココに集合ね」「ココで待ってて」「ココに行こう」そんな声がこの八幡のまちに溢れ、人と人、地域と人の笑顔が続くよう、老舗材木店の役割を果たしてまいります。

株式会社 福原材木店

■所 在 地:〒805-0069 福岡県北九州市八幡東区前田3-2-1
■電話番号:093-662-4131(代表)
■設　　立:1974年4月(創業1891年)
■従業員数:12名
■代表取締役社長:福原 俊雄(ふくはら としお)氏

福原材木店ホームページ

建築・リフォーム部門「エスプレッソホーム」

福原材木店外観

ヤハタココ

■所 在 地:〒805-0069 福岡県北九州市八幡東区前田2-4-11
■電話番号:093-663-0855
■営業時間:7:30-18:00
■定 休 日:日曜日、祝日

ヤハタココInstagram

ヤハタココ外観